YOKOHAMA HISTORY MUSEUM NEWS

横浜市歴史博物館

NEWS 30
2011・3

◇インタビュー　峰岸純夫
　二つの湊と鶴見川などの河口部は中世の流通の重要な拠点だった
◇インタビュー　福田アジオ
　民俗学は今の人の歴史に対する認識やイメージが捉えられる
◇特別展『大昔のムラを掘る―三殿台遺跡発掘50年』によせて
◇横浜市三殿台考古館における普及・啓発活動について
◇大塚・歳勝土遺跡のいまむかし
　―大塚・歳勝土遺跡公園開園15周年を迎えて―
◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉はにわのあめ
◇報告　開館16周年記念博物館感謝デー
◇〈知ってますか?〉「レックル」です。よろしく!

●三殿台遺跡

いんたびゅー

二つの湊と鶴見川などの河口部は中世の流通の重要な拠点だった

東京都立大学名誉教授
峰岸 純夫（みねぎし・すみお）

◎中世史に興味を持った理由は何ですか。

群馬県で生まれ育って、高校時代は考古学に興味を持っていました。地歴研究会に所属して、自転車であちこち回って土器などを拾ったり、大学の先生から指導を受けたりしました。卒業後は赤堀村（現・伊勢崎市）で代用教員をしながら、慶應大学の通信制で歴史を学び、卒業論文で、地元の浅間山麓にある女堀という巨大な用水溝の遺構について書いたのです。この遺構は、その後の調査で一一〇八年の浅間山大噴火後の築造と分かるのですが、私は卒論でいつ頃、誰が造ったのかを推定するため、考古学だけでなく、民俗学の視点で考えたり、文献資料にも当たりました。この研究が、中世史をベースとすることになった原点です。大学院の指導教官が近世史の専門だった関係で、近世史も研究しましたし、考古学との関連で古代史にも、戦争などの問題を考えるため、近現代史にも関心を持っています。歴史は連続しているのですから、いろいろな時代に係わるのは当然です。ただ、古墳研究の群馬大学の尾崎喜佐雄先生から「フランチャイズ（本拠）はもたないといけない」と言われたこともあって、中世の新田荘研究を本拠にしています。

中世では武士が勢力をはり、戦乱も多かった

◎当館の常設展示の「中世」を取りまとめられました。横浜市域の中世の特徴は。

常設展示の中で、金沢区六浦の高台で発見された上行寺東遺跡を紹介しています。大量の墓が見つかり、中世にはその周辺で大勢が暮らしていたことが分かります。この遺跡から見下ろす位置に、当時、六浦の湊（みなと）がありました。神奈川湊（現・神奈川区）とともに江戸湾（東京湾）に面する港として、中世の水運の重要な拠点となっていました。これらの港に加え、その北の鶴見川・多摩川の河口部も、当時の物流で大きな役割を果たしていました。中世には板碑と呼ばれる板状の石碑が造られたのですが、その材料の石材は、現在の埼玉県の長瀞や秩父で採掘され、船で多摩川や鶴見川の河口に運ばれてきて、そこで半製品に加工されてから、各地へ流通したことが分かっています。これらの流通拠点があったことは、横浜の中世史を考える上でのポイントでしょう。また、有力な豪族がいて、戦乱も多くありましたから、史料の研究が進めば、より豊かな中世史が見えてくるのではないかと思います。

苦労しながら工夫も

◎群馬県立博物館館長の経験から、昨今の博物館を巡る状況をどう考えますか。

今、博物館はどこも苦労しています。原因は二つあり、一つは不況による財政難です。そのため思うように展示活動ができない、などの問題が出ています。もう一つは、指定管理者制度です。施設の運営に当たる団体を公募し、審査で選ばれた団体が五年間、運営に当たる制度です。一度選ばれた団体が五年後にまた、選ばれるためには、期間内に目に見える成果を上げなければならない、つまり実績が重要になるのです。その結果、入館者数を増やすことに力が注がれ、学芸員の調査研究活動がないがしろにされる例も見受けられます。何とか状況が改善されるとよいのですが。また、例えば、メイン展示では観覧者が集まりやすい企画をやりながら、隣のサブ展示で、学芸員の地道な研究成果を発表する、といった工夫をしているところもあります。

地域と全国のバランス

◎当館に期待することは何ですか。

地域の資料を発掘・収集・研究などしながら、それを展示に生かしたり、地域の人に見てもらったり、学校教育に関連づけて利用してもらう、という地域密着型の活動が、まず求められます。同時に、全国的な視野の中に地域に根ざしたテーマを入れ込む、というか、ある意味、大きな視野での展示を行うことも大切です。その両方をバランスよく行うようこの館は努力している、と聞いています。観覧する市民には、そういうところも見ていただきたいものです。また、日本の歴史は京都だけを中心に語られる傾向が強かったのですが、最近、地域の歴史研究が盛んになってきました。その上、例えば、応仁の乱と同時に進行した関東の享徳の乱において、京都と鎌倉はどういう関係だったのか、といった地域相互の関係性を考えることも重要視されています。そういう意味でも、この館のような地域博物館の役割は大きいと思います。

▽みねぎし・すみお　プロフィール

●一九三二年、群馬県に生まれる。一九六一年、慶應義塾大学大学院修士課程修了。横浜市立港高校、慶應志木高校の教諭を経て、宇都宮大学教育学部助教授に就任。その後、東京都立大学人文学部教授、中央大学文学部教授を歴任。中世史を基盤に、中世考古学まで幅広く研究。群馬県立博物館館長も務めた。文学博士。

●主著　『中世の東国―地域と権力』『中世社会の一揆と宗教』（以上、東京大学出版会）、『中世災害・戦乱の社会史』『人物叢書　新田義貞』『足利尊氏と直義』『中世東国の荘園公領と宗教』（以上、吉川弘文館）、『中世荘園公領制と流通』（岩田書院）、『中世の合戦と城郭』（高志書院）、『日本中世の社会構成―身分と階級』（校倉書房）など。

いんたびゅー

民俗学は今の人の歴史に対する認識やイメージが捉えられる

神奈川大学教授
福田 アジオ（ふくた・あじお）

◎民俗学に興味を持った理由は何ですか。

大学で歴史学をやることは早くから決めていました。その理由は覚えていないのですが、民俗学をやろうと思った理由ははっきりしています。高校三年生の時、東京・神田の新刊を安く売る本屋で、民俗学者の柳田國男が書いた『史料としての伝説』という本を、今の感覚で言うと百円ぐらいで売っていたので、買ったのです。その本は、木地屋さんと言って、お椀やお盆などを、木をろくろで削って作る職人のことを取り上げています。この人たちはかつて、お椀などにふさわしい木を求めて山から山へと移動し、よい木があるとそこに小屋掛けして、木を切り、それらを作る「特権」を持っていました。そういう職人の歴史的な世界を、木地屋さんが語ったり、各地で伝えられていることを基礎に説いたりしている本です。この本を読んで「こういう歴史もあるんだ」と感動して、柳田國男のことを知ったのが、民俗学に興味を持ったきっかけです。

港北ニュータウン調査

◎一九七一年頃、港北ニュータウン地域内文化財調査に参加されましたが、どのような成果がありましたか。

南関東の多摩丘陵から神奈川県大和市にかけて、ジルイ、ジミョウなどと呼ばれる、この地方独特の社会組織があります。二軒の家が相互に、婚礼や葬儀の時に助け合う仕組みで、それが村の仕組みとも関係しています。私が調べた渋沢（現＝都筑区荏田東）と柚木（現＝都筑区荏田南）では、こういう関係を「ジシンルイ」と呼び、当時は皆、農家でしたから、ジシンルイがあるのが当たり前でした。かつての日本の、特に東北地方や中部地方などの社会では、本家と、そこから出た数多くの分家が一つの集団、いわゆる「一族」をつくるのが普通とされていましたが、関東には別の仕組みがあることに、私は注目してきました。港北ニュータウンでは、その好事例のまとまった調査ができたのです。

ずれて当然ではないか

◎歴史学と民俗学との連携を提唱していますが、具体的にはどういうことですか。

ジシンルイの例で言えば、歴史学では、残っている江戸時代の史料から、本家がどこか、とか、家々はどこにどれだけの田んぼを持っていたか、というようなことを明らかにします。それらの家々がどういう社会関係をつくり、どういうふうに暮らしていたか、ということは歴史学ではなかなか分からないのですが、民俗学では明らかにできます。逆に民俗学では、ジシンルイがどういう歴史的背景を持っているかを、言い伝えなどで聞くことはできても、実際にどういう形成過程をたどったか、実態はどうだったかは分からない。そういうところに、民俗学と歴史学をつなげる作業の価値があると思います。ただし、方法が違うのですから、答えが違う場合もあります。つまり、民俗学では、今の人が抱く歴史認識とか歴史のイメージというものが捉えられて、必ずしも事実としての過去ではない。一方、歴史学は、文書などの記録に基づいて、歴史的事実としての過去を明らかにするものです。以前は歴史学と民俗学の答えにずれがあるのはおかしいのではないか、と考えたのですが、最近は、ずれていて当然ではないか、無理に統合しなくてもいいのでは、という意見です。

横浜の人々の生活史を

◎では、博物館では民俗学と歴史学を、どう扱ったらよいと考えますか。

かつて、公立の博物館では民俗展示と歴史展示を別々にすることが多かったのです。そのうちに「民俗学が明らかにしているものも歴史ではないか」という反省が起こり、歴史展示の中に民俗を組み込むようになり、民俗展示の多くが消えました。それも違うのではないか。それでは、民俗の意味とか、民俗学が明らかにすることが消えてしまう面もあるのではないか、と最近は思っています。

◎当館にはどんなことを期待しますか。

ここの博物館は、横浜開港資料館と横浜都市発展記念館と「分業」関係にあって、同じ横浜の歴史でも、扱う時代や対象を分けているそうですが、同時に、この博物館は総合博物館的な意義も持っています。ですから、ここに来たら、横浜で暮らしてきた人々の生活史が、年代にかかわらず全て分かる、というふうになってほしいのです。民俗の展示も、どこかにあってもいい、という気がします。その場合、横浜における民俗の中心をどこに置くか、ということが課題になると思います。

▽ふくた・あじお　プロフィール

●一九四一年、三重県に生まれる。一九七一年、東京教育大学大学院文学研究科修士課程修了。日本民俗学専攻。武蔵大学教授、国立歴史民俗博物館教授、新潟大学教授を経て、二〇一一年三月まで神奈川大学教授・同大日本常民文化研究所非文字資料研究センターセンター長を務める。

●主著　『日本村落の民俗的構造』『日本民俗学方法序説』（弘文堂）『柳田国男の民俗学』『近世村落と現代民俗』『日本の民俗学―「野」の学問の二〇〇年』（吉川弘文館）『歴史探索の手法―岩船地蔵を追って』（筑摩書房）など。

特別展

『大昔のムラを掘る―三殿台遺跡発掘50年』によせて

今からちょうど五〇年前、昭和三六（一九六一）年の夏のことです。横浜市磯子区岡村にある三殿台遺跡では、ベルトコンベアやオート三輪が忙しく土を運び出す中、主に東京近郊の大学から参加した大学生や先生に連れられてやってきた地元の中高生が、遺跡の発掘に汗を流していました。二〇一一年度春の特別展は、発掘から五〇周年を迎える国指定史跡・三殿台遺跡を取り上げます。

三殿台遺跡の存在が知られるようになったのはかなり古く、明治三二（一八九九）年のことでした。横浜市内に住む医者が往診中に畑の一角で貝塚を発見し、学界に報告したのです。その後も多くの研究者が遺跡を訪れて表面採集や小規模な発掘を行っていました。

発掘に参加した人々

昭和二〇年代後半になると遺跡の周囲でも宅地開発が盛んに進められるようになり、増え続ける人口に対応して学校の教室不足が深刻な問題となります。昭和二九（一九五四）年には現在の岡村小学校がある場所に滝頭小学校岡村分校が作られましたが、さらに三殿台遺跡のある台地を切り下げて新しい校舎を建設する計画が立てられました。三殿台遺跡の発掘は、この小学校校舎の建設にともなう事前調査として行われましたが、単に遺跡を壊す前に発掘したというだけではなく、明確な目的意識のもとに行われた調査でもありました。

発掘を指揮した和島誠一は、日本考古学における集落遺跡の研究をリードした学者でした。それまでの考古学の調査では、せいぜい竪穴数軒分の面積を掘るのが主流でしたが、和島は過去のムラの成り立ちを明らかにするためには、「集落の全体を一気に剥がす」全面発掘を行うことが必要だと考えていました。そのような調査を行うためのフィールドとして三殿台に注目していたのです。

三殿台が全面発掘の対象としてふさわしいと考えられた理由は大きく二つあります。一つは、縄文・弥生・古墳の各時代の集落が重なり合っており、一か所で縄文時代から古墳時代にいたる集落の変遷を連続的に追うことができると期待されたこと、もう一つは、台地の周囲の斜面に縄文時代の貝塚が点在しており、縄文時代以降それほど大きな地形改変は受けていないと考えられたことです。

短期間で遺跡を全面発掘するために、三殿台遺跡では従来とは異なる調査方法が取り入れられました。それまでの発掘調査のスタイルは、まずトレンチと呼ばれる細長い溝を掘ってどこに竪穴住居があるのかを確かめ、続いてその周囲を掘り広げていくというものでした。三殿台の調査では、最初にブルドーザーで遺跡全体の表土をはがしてしまうという方法が採られました。また、掘り上げた土を運ぶためにベルトコンベアも導入されました。このような重機を導入した調査方法は、その後の日本列島各地で行われた大規模な発掘調査において新たなスタンダードとなっていったのです。

発掘の主力を担ったのは、さまざまな大学から集まった考古学専攻の大学生達でした。調査期間を一〇日間ずつ四期に分け、五〇人の学生が岡村分校の教室に寝泊まりして調査にあたりました。この時の参加者の中には、その後全国各地で考古学の第一線で活躍した人も多かったのです。このような合宿生活には横浜市および分校教職員のサポートがあったほか、汚れた衣類の洗濯や現場でのお茶出しには、地元の町内会・婦人会の協力があったそうです。のべ一五〇〇人に達する県内および都内の中高生も協力員として発掘に参加していました。

掘り出された各時代の竪穴住居は台地全面で複雑に重なり合い、その数は二五〇軒を越えていました。当時の新聞報道を見ると、学界のみならず一般の関心も高かった様子がうかがえます。本来は校舎増設のための調査でしたが、遺跡の学問的重要性が明らかになるにつれ、何とか遺跡を保存できないかという声が高まってきます。校舎建設か文化財保護かという議論が戦わされましたが、最終的には校舎を鉄筋四階建とすることで、遺跡としての破壊を最小限にとどめて保存するという方針が打ち出され、国指定史跡指定・三殿台考古館の開館へとつながっていきました。

高度経済成長期には、全国各地で開発にともなう大規模な事前調査が行われました。多くの遺跡の破壊と引き換えに手に入れたものであるとはいえ、そこで蓄積された膨大な考古資料が、現在の日本考古学の水準を支えていることは間違いありません。三殿台遺跡はこのような大規模調査の走りともいうべきものでした。また、直接の契機は校舎の建設という行政的なものでしたが、それを集落の全面発掘に結びつけたのは、それまでの地道な調査研究と強い目的意識でした。いたずらに最大や最古を競うのではなく、目的をもって遺跡の発掘を行うことの重要性を三殿台遺跡は教えてくれるのです。

（高橋　健）

横浜市三殿台考古館における普及・啓発活動について

三殿台遺跡は横浜市の南部、磯子区岡村の標高約五五㍍の台地上に所在する国指定史跡で、縄文・弥生・古墳時代の集落遺跡です。

昭和三六（一九六一）年に発掘調査が行われ、縄文・弥生・古墳時代の住居約二五〇軒が見つかり、各時代の集落の様相が明らかになりました。昭和四一（一九六六）年に国指定史跡となり、昭和四二（一九六七）年に展示室・住居跡保護棟・三つの時代の復元住居を整備した三殿台考古館が開館しました。以降、三殿台考古館では、国民共有の貴重な財産を保護するとともに、市域の歴史の普及・啓発を進めるために様々な活動に取り組んできました。

三殿台遺跡の発掘調査から五〇年目を迎えるにあたり、館の活動を紹介させていただきます。

◇◆◇

館では、個人・団体を問わず希望される方々に対して遺跡の説明を行っています。とくに、近隣の小学校六年生の社会科見学の場として活用いただいています。さらに、三殿台遺跡に暮らした人々の生活を疑似体験できる教室を開催しています。今年度は、マイギリで行う火起こし、青田石という加工しやすい石を紙やすりで削る勾玉作り、都筑区原出口遺跡出土の筒形土偶を再現する土偶作り、粘土こねから野焼きまで行う土器作り、土器の模様を写し取る拓本取りと、遺跡に一泊するキャンプなどを行いました。また、市民協働事業として、遺跡を見学される方々に対して解説する遺跡ガイドボランティア、主に三殿台遺跡出土の土器や石器を整理する、遺物整理ボランティアの方々の協力をいただいています。

◇◆◇

館外での活動は、雑誌や映像、インターネットといった媒体をとおしての広報と、出前教室です。広報では遺跡についてはもちろんのこと、体験教室の内容、館内に咲く花や飛来する鳥など、三殿台遺跡が持つ様々な魅力を紹介しています。出前教室は、依頼のあった近隣の小学校などへ赴き体験学習を行っています。今年度は、土器作り教室や勾玉作り教室、弓矢作り教室などを行いました。

◇◆◇

今回は、三殿台考古館における普及・啓発活動を紹介しました。是非、各種体験教室やボランティア活動に参加し、原始・古代の文化に触れてみませんか。

（橋口 豊）

遺跡ガイドボランティア

土偶作りの様子

横浜市三殿台考古館　利用案内

■所在地
〒235-0021　横浜市磯子区岡村4-11-22
Tel.045-761-4571／Fax.045-761-4603
ホームページ　http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/shisetsu/sandd/

■行き方
●電車で…
・市営地下鉄「蒔田」駅南口から徒歩20分
●バスで…
・「弘明寺」停留所（市営地下鉄「弘明寺」駅前）から、市営バス219系統（弘明寺～三殿台公園循環）「三殿台公園」停留所下車徒歩3分
・JR「保土ヶ谷」駅または京浜急行「井土ヶ谷」駅から市営バス9系統、JR「磯子」駅から市営バス9・78系統「天神前」停留所下車徒歩10分

■開館時間
4月～9月　9:00～17:00
10月～3月　9:00～16:00

■休館日
第3水曜日(祝日の場合翌日)、12月28日～1月4日

■入場料
無料

■駐車場
乗用車5台可　※大型バスは進入できません。

大塚・歳勝土遺跡のいまむかし

―大塚・歳勝土遺跡公園開園一五周年を迎えて―

1 発掘から開園まで

この三月で大塚・歳勝土遺跡公園は開園一五周年を迎えます。これを機に大塚・歳勝土遺跡のいまむかしをたどってみます。

横浜市の北部にニュータウンを国と市が建設することになり、昭和四二年（一九六七）に遺跡の分布調査が行われることになりました。五月一九日に港北区（現・都筑区）大棚町付近を歩いた時にはじめて大塚遺跡があることを発見しました。この時は、ここに環濠集落址があろうとは夢にも思いませんでした。

昭和四七年（一九七二）八月に遺跡の内容・性格などを知るために予備的な発掘をして、弥生時代中期宮ノ台期の住居址と断面V字の溝を発見し、緑区（現・青葉区）にあった朝光寺原遺跡の調査成果から環濠をもつ集落址と推測しました。この時、東隣の歳勝土遺跡が掘られていて、同じ時期の方形周溝墓の共同墓地が明らかになったことから、発掘調査団では横浜の地で本格的な米作りがはじまった時期の集落と墓地の関係を統一的に捉えることができると考えたのです。

昭和四八年（一九七三）四月から五一年（一九七六）にかけて遺跡の全面発掘を行い、ここに日本ではじめて弥生時代の集落址の全貌があらわれました。この成果に対し、国は両遺跡を昭和六一年（一九八六）一月国指定史跡に指定しました。横浜市はこの貴重な文化遺産を市民に有効に活用してもらうために、平成元年（一九八九）一二月から遺跡の買い上げ交渉を開始し、地元の方の多大なご理解・ご協力を得て、本格的に史跡公園として整備が始まります。その後、平成八年（一九九六）三月二三日、遺跡は大塚・歳勝土遺跡公園として公開され、開園しました。

（武井則道）

発掘当時の大塚・歳勝土遺跡　写真提供／(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

2 公園の利用・活用

翌平成九年（一九九七）三月に都筑民家園（旧長沢家住宅）が一般公開され、公園の全容が整うことになります。以後、公園は気候の良い春や秋には周辺住民の憩いの場となり、四月から六月にかけては多くの小学校が訪れる学習の場ともなります。また、歴史愛好団体の歴史散策やウォーキンググループのコースポイントに設定され、多くの方が訪れます。秋に行われる都筑区主催の「ウォーク・アンド・フェスタ」はその最大規模の行事です。

平成一一年（一九九九）四月からは公園を案内する遺跡公園ガイドボランティアが活動を開始しました。現在六期目（一期二年）のガイドさんが活躍しており、赤いジャンパーにベージュの帽子姿のガイドさんが大勢の小学生や家族連れを案内する様子は今や公園の風物となっています。

博物館では遺跡公園ならではの事業も行ってきました。体験学習や土器作り教室で作った土偶や縄文土器を焼く「野焼き」は年に三回行われ、高く舞い上がる炎の迫力に立ち止まる来園者は少なくありません。この時には制作土器で作ったスープを来園者にサービスしますが、その味はおおむね好評です。竪穴住居に泊まる体験は小学五、六年生を対象に「古代人まるごと体験講座」と銘打って平成一二年（二〇〇〇）八月から都筑区役所との共催で始まりました。近年では家族単位での参加に変わりましたが、原始の家での宿泊は相変わらず人気のある企画です。ここ二年間は秋に地域の方々と連携して現代アート展（都筑アートプロジェクト）を開催しました。原始文化と現代アートのコラボレーションの試みで新たな来館者層の開拓を意図した企画です。

この一五年間、公園では色々な催しを行いましたが、まだまだ公園の認知度は低いのが現状です。今後も多くの市民の方に愛される公園を目指して努力してゆきます。

（井上　攻）

野焼きの様子

遺跡公園ガイドボランティアの活動

横浜市歴史博物館●日誌●

二〇一〇年一月一日～一二月三一日

- ●1月9日　収蔵資料ミニ展示「縄文時代の骨角器類」(1月17日まで)
- ●1月11日　企画展関連フロアレクチャー
- ●1月14日　古文書解読教室「上級編」(2月11日まで全5回)
  「中世史料講読講座」(2月11日まで全5回)
- ●1月17日　収蔵資料ミニ展示解説
- ●1月23日　特別展「古代の役所と地域社会」開催(3月22日まで)
  ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- ●1月23・24日　体験学習「紙すき」
- ●1月30・31日　特別展関連フロアレクチャー
  開館15周年記念博物館感謝デー
- ●2月6日　特別展関連研究講座「横浜市域の郡家ー武蔵国都筑郡家を中心にー」
- ●2月7日　開館15周年記念特別講演会「中世東国の戦争と平和ー享徳の乱を中心にー」
- ●2月13日　特別展関連フロアレクチャー
  収蔵資料ミニ展示「法隆寺百万塔と関連資料」(2月21日まで)
- ●2月14日　特別展関連講演会「「上野国交替実録帳」からみる郡家と地域社会」
  体験学習「土器づくり教室」(3月20日まで全4回)
- ●2月16日　特別展関連遺跡散歩「武蔵国府周辺を歩く」
- ●2月18日　「古代史料講読講座」(3月18日まで全5回)
- ●2月20日　特別展関連研究講座「郡家成立以前ー7世紀後半の地域編成ー」
- ●2月21日　収蔵資料ミニ展示解説
- ●2月27日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- ●2月28日　特別展関連講演会「郡家の構造と機能」
- ●3月2日　特別展関連遺跡散歩「武蔵国都筑郡家周辺を歩く」
- ●3月6日　特別展関連研究講座「武蔵国都筑郡と郡家の成立」
- ●3月12日　特別展関連遺跡見学バスツアー「駿河国志太郡家を訪ねて」
- ●3月13日　収蔵資料ミニ展示「戸塚「丁子家」関係資料」(3月22日まで)
- ●3月20日　特別展関連フロアレクチャー
- ●3月20日・21日　「センター北まつり」出展
- ●3月22日　収蔵資料ミニ展示解説
- ●3月25日　ふるさと横浜探検　バスツアー「国史跡伊豆長浜城と韮山周辺の歴史散歩」
- ●3月27日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」
- ●4月1日　体験学習室ミニ展示「私たちが作った縄文土器展」(4月6日まで)
- ●4月10日　企画展「考古学ってなに?」開催(5月23日まで)
- ●4月17日　企画展関連研究講座「竪穴住居について」
- ●4月22日　企画展関連遺跡散歩「港北ニュータウンの遺跡を歩く」
  ふるさと横浜探検「よこはま事始め 横浜道を歩く」
- ●4月24日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」「火起こし体験」
- ●4月24・25日　体験学習「まがたまづくり」
- ●4月29日　企画展関連フロアレクチャー
- ●5月1日　企画展関連研究講座「漁具の考古学」
  横浜F・マリノス「トリコロールファミリーDay」ブース出展
- ●5月2日　企画展関連講演会「考古学ってなに?」
- ●5月3・4・5日　企画展関連ゴールデンウィーク親子イベント親子向け展示解説
- ●5月5日　企画展関連ゴールデンウィーク親子イベント古代米ー口体験・火起こし体験
- ●5月15日　企画展関連研究講座「コロボックルと千鳥探検」
- ●5月20日　企画展関連遺跡見学バスツアー ふるさと横浜探検「釈迦堂遺跡博物館と山梨の博物館を訪ねて」
- ●5月22日　企画展関連フロアレクチャー
- ●5月29日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」「火起こし体験」
- ●6月5日　企画展「古墳時代の生活革命ー5世紀後半・矢崎山遺跡ー」開催(7月11日まで)
- ●6月11日　共同事業「横浜F・マリノススバイクミニ展示」(7月22日まで)
- ●6月12日　企画展関連フロアレクチャー
- ●6月19・20日　体験学習「小田原ちょうちん」
  ※7月31日に日産スタジアムに横浜F・マリノス共同事業として展示
- ●6月20日　企画展関連講演会「古墳時代の祭祀と石製模造品」
- ●6月26日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」「火起こし体験」
- ●7月1日　ふるさと横浜探検「国史跡称名寺と金沢周辺の歴史散歩」
- ●7月3日　企画展関連講演会「矢崎山遺跡の発掘調査」
- ●7月4日　企画展関連フロアレクチャー
- ●7月8日　企画展関連遺跡見学バスツアー「かみつけの里博物館と日本のポンペイ黒井峯遺跡を訪ねて」
- ●7月10日　収蔵資料ミニ展示「小田原北条氏印判状と関係資料」(7月19日まで)
  第18回エントランスホールコンサート「Saxophone & Piano Concert」
- ●7月17日　体験学習室ミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」(9月30日まで)
- ●7月19日　収蔵資料ミニ展示解説
- ●7月21日　企画展関連イベント「のぞきからくり」組立見学
- ●7月24日　企画展「大紙芝居展ーよみがえる昭和の街頭文化ー」開催(9月5日まで)
  ※7月24・25日および会期中の平日毎日「突然実演!紙芝居」
- ●7月27・28日　体験学習「土偶づくり」
- ●7月30日　体験学習「まがたまづくり」
- ●7月31日　企画展関連イベント「復活!街頭紙芝居」
  企画展関連フロアレクチャー
  ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」「昔のあそび体験」
- ●8月1日　企画展関連イベント「復活!街頭紙芝居」
  企画展関連フロアレクチャー
  夏休み博物館たんけん隊
- ●8月3日　体験学習「縄文ボシェットづくり」
  共同事業「横浜F・マリノススバイクミニ展示」(8月11日まで)
- ●8月5・6日　体験学習「そめもの(万祝染)」
- ●8月7・8日　企画展関連イベント「実演!のぞきからくり」
- ●8月8日　夏休み博物館たんけん隊
- ●8月10日　体験学習「まゆ細工」
- ●8月11日　体験学習「かざぐるまづくり」
- ●8月14・15日　企画展関連イベント「大道芸!物売り口上の巻」
  企画展関連イベント「21世紀紙芝居「新訂／蛇蝎姫と慙愧丸」」
- ●8月14日　収蔵資料ミニ展示「豊広 東海道五十三次」(8月22日まで)
- ●8月15日　夏休み博物館たんけん隊
- ●8月19・20日　体験学習「まがたまづくり」
- ●8月21・22日　企画展関連イベント「立絵紙芝居」
- ●8月21日　土偶等野焼き
- ●8月22日　収蔵資料ミニ展示解説
  夏休み博物館たんけん隊
- ●8月28・29日　企画展関連イベント「新・大衆紙芝居」
- ●8月28日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」「昔のあそび体験」
- ●8月29日　夏休み博物館たんけん隊
  横浜F・マリノス「こうほくサンクスマッチ」にブース出展
- ●9月4日　企画展関連シンポジウム「文化資源としての街頭紙芝居ーなつかしさを越えてー」
- ●9月5日　企画展関連イベント「復活!街頭紙芝居」
  企画展関連フロアレクチャー
- ●9月11日　収蔵資料ミニ展示「近世・近代神楽関係資料」(9月20日まで)
- ●9月18日　企画展「近世横浜海岸部の新田開発」開催(11月3日まで)
- ●9月18～19日　竪穴住居に泊まろう!
- ●9月19日　企画展関連フロアレクチャー
- ●9月20日　収蔵資料ミニ展示解説
- ●9月25日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」「火起こし体験」
- ●9月26日　企画展関連研究講座「池上幸豊による新田開発計画」
- ●10月1日　体験学習室ミニ展示「江戸時代の旅」(11月30日まで)
- ●10月2日　企画展関連フロアレクチャー
- ●10月3日　企画展関連研究講座「潮田村の開発」
- ●10月9・10日　体験学習「土偶づくり」
- ●10月10日　企画展関連フロアレクチャー
- ●10月16日　企画展関連研究講座「帷子川河口部の開発」
  ふるさと横浜探検「鶴見川と寺家の里山を訪ねて」
- ●10月17日　企画展関連フロアレクチャー
- ●10月19日　都筑アートプロジェクト2010
  「ニュータウン・ニュータウン・ニュータウン～アートでつなぐ物語のかけら～」(11月5日まで)
- ●10月24日　企画展関連研究講座「大岡川河口部の開発」
- ●10月30日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
- ●10月31日　企画展関連研究講座「泥亀新田・入江新田の開発」
- ●11月3日　企画展関連フロアレクチャー
  「都筑区民まつり」出展
- ●11月6日　土偶野焼き
- ●11月13日　テーマ展「東海道と江戸時代の旅」開催(11月28日まで)
- ●11月13・14日　体験学習「ぞうり編み」
- ●11月18日　ふるさと横浜探検「旧東海道鶴見周辺の歴史散歩」
- ●11月21日　テーマ展関連フロアレクチャー
- ●11月23日　テーマ展関連親子向けフロアレクチャー
- ●11月27日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」「火起こし体験」
- ●11月28日　テーマ展関連フロアレクチャー
- ●12月1日　体験学習室ミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」(3月31日まで)
- ●12月11日　企画展「横浜市指定・登録文化財展」「横浜の遺跡展ー稲作開始期の集落群ー」開催(1月10日まで)
- ●12月11・12日　体験学習「凧づくり」
- ●12月19日　企画展関連フロアレクチャー
- ●12月25日　ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」
  第19回エントランスホールコンサート
  「ストリングスの響きで贈る名曲の玉手箱～レ・フレール・カルテットと仲間たち～」

ちょいと ミュージアムショップたいむ Museum Shop Time

はにわのあめ

ぬいぐるみに、キーホルダーに、ストラップに、メモ帳に、キューピーのかぶりものに、サブレにと…。そしてとうとう皆様のご希望にお応え(?)し、あめになって登場いたしました!金太郎あめなので一つとして同じ顔の〝はにわ〟はないのですが、とても愛嬌のある〝はにわ〟ばかりです。目が小さかったり、大きかったり。体がスリムだったり、ぽっちゃりしていたり。〝はにわ〟の色から(?)味はオレンジ味なので、皆さまには馴染みやすい味ではないでしょうか。

是非、博物館に遊びにいらした記念品として、ご家族のご旅行やお子さんの遠足のおやつとして、はたまた遺跡発掘作業の休憩の一服として口にはこんで楽しんでください。〝はにわ〟のあめが皆さまの心に「ほっ」と温かさを与え、やすらいでいただけたらと思います。

はにわのあめ
一袋10個入り
294円(税込)

報告

開館16周年記念博物館感謝デー

紙芝居ひろばの様子

ことしもやりました！感謝デー。10周年を記念した「博物館まつり」としてはじまったこの催しは、「感謝デー」としてもすっかりお馴染みになったのではないでしょうか？

1月29日（土）と30日（日）の2日で約3000人のお客様にお越しいただきました。普段の、静かにゆっくり…の博物館からは想像もできないにぎわいで、私達スタッフもうれしい悲鳴をあげてしまいました。

今年のプログラムは、毎年恒例の土器パズルや鏡パズル、担当学芸員による「通史展示ガイドツアー」に加え、研修室での「つくってみよう勾玉」の復活、エントランスホールでは昨年夏の「大紙芝居展」の記憶がまだ新しい、「感謝デー紙芝居ひろば」をおこない、たくさんのみなさまに楽しんでいただきました。そして、大好評だったのが受付スタッフによる時代衣装。各時代の衣装に身をつつみ、みなさまをお出迎え、ご案内いたしました。

まだまだ博物館にはじめて来たというお客さまもいらして、博物館という存在を知っていただくよい機会になっていると感じています。次回も乞うご期待！

時代衣裳でお出迎え

??????? 知ってますか ???????

「レックル」です。よろしく！

こんにちは、レックルです。去年の博物館感謝デーで、名前をもらいました。

僕はオナガドリ。明治時代に横浜港から輸出されたので、外国ではオナガドリを「ヨコハマ」と呼んだそうです。それが縁で、僕は開館当初からずっと歴史劇場の案内役を務めていて、誰もが認める常設展示室のシンボル的存在！…と、思っていたのに…名前がなかったんです…しかも15年間も。

それを職員さんに訴えたら、開館15周年記念イベントとして感謝デーで名前を公募してくれました。その結果、「歴博にみんな来るように」という願いが込められた「レックル」に決まり、2010年5月1日に命名式が行われました。名付け親は、旭区の増田京子さん。本当にありがとうございました！

命名と同時にご覧のイラストになって、今年からは表情や動きのバリエーションも増えました。今まで以上に博物館のマスコットとして活躍しますので、みんな僕を応援してくださいね！

これからの催しもの

◎特別展「大昔のムラを掘る―三殿台遺跡発掘50年」
4月9日（土）～5月29日（日）

◎収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山ー横浜・神奈川の名所（などころ）」（仮称）
6月11日（土）～7月10日（日）

◎企画展「風景を持ち帰る、風景を伝える、絵はがきあれこれ」（仮称）
7月23日（土）～9月11日（日）

表紙写真は

三殿台遺跡の航空写真で、掘り上げられた250軒以上の竪穴住居が見える。一万㎡を超える集落の全面発掘は当時としては画期的な試みであった。左側に見える木造の建物が、発掘参加者達の宿舎であった磯子小学校岡村分校（現在の岡村小学校）である。

編集後記

いつも楽しみにして下さっている読者の皆さま、大変お待たせ致しました。ニュース三〇号をお届けします。前号から約一年分の日誌を見ると、光陰矢のごとし・・色々ありました。二三年度も引き続き様々な催し物をお楽しみ下さい。読者の皆さまからのご意見・ご感想もお待ちしております。（f）

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間
午前9時から午後5時まで（ただし、入館は午後4時30分まで）
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
都筑民家園
毎月第3月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区　分	個　人	団　体（20人以上、1人につき）
一　般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
◆「濱ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳（療育手帳）」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図　横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
（「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分）

駐車場あり（1時間200円）
●インターネットホームページ　http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/

横浜市歴史博物館ニュースNo.30／2011年3月31日発行
●編集・発行　横浜市歴史博物館
●印刷　株式会社神奈川新聞社営業局出版部

横浜市歴史博物館
〒224-0003　横浜市都筑区中川中央 1-18-1
TEL.045-912-7777（代表）FAX.045-912-7781